浅野有希子先生（大学院医学科３９期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。

**長年の苦労が認められたことを大変嬉しく思います。**

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

**浜松医科大学大学院博士課程の入学時に、所属講座（産婦人科学）の教授より本テーマをいただきました。ヒトの初期の胎盤形成では、母体と胎児の境界面にフィブリノイド層と呼ばれるフィブリン堆積が形成されます。しかし、フィブリン欠乏症女性の妊娠ではそのフィブリノイド層が形成されずに流産に至ることを、同講座はこれまでに発表しています。そこから、おそらく受精卵もフィブリンによる何らかの影響があるだろうと推測されました。**

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

**社会人学生として本職の仕事をしながらの研究であり、さらに出産や育児も重なり、研究に割く時間を作ることにとても苦労しました。また、この研究に取り組み始めた時には、ヒト受精卵の長期体外培養法がまだ確立されていなかったため、培養液や培養条件の設定から始めなければなりませんでした。しかしヒト受精卵は倫理的にも使用数に限りがあります。そのため、条件設定の確立を目的として一旦マウス受精卵に切り替えましたが、ヒトとマウスでは慣習的に受精卵の培養条件が異なることで、マウスで得た条件をそのままヒトに還元できず、安定してヒト受精卵を長期培養できるまでに時間を要しました。**

質問４　近況をお聞かせください。

**博士課程を卒業後、訪問共同研究員として講座に残らせていただきました。今後も仕事と研究を両立する予定です。**

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

**これまでの研究では、フィブリンのヒト受精卵への影響を、線溶と細胞増殖という現象に着目して調べてきました。今後は、フィブリンや線溶因子、特にフィブリン分解産物（FDP）がヒト受精卵に与える遺伝子発現の変化などを調べていく予定です。**

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

**このような素晴らしい賞をいただくことで、今後の研究の励みになると思います。引き続き活動していただくことを期待いたします。**